

当院健診センターにおけるBMI判定の区分による4年前との比較について

◎宮松 千栄¹⁾、福岡 秀人²⁾、佐藤 良美²⁾、吉村 恵介³⁾、服部 晋也⁴⁾、宮田 栄三⁵⁾、左右田 昌彦²⁾
 厚生連 海南病院 臨床検査技術科¹⁾、同 臨床検査技術科²⁾、同 教育研修室³⁾、同 健康管理室⁴⁾、同 検査
 診断科⁵⁾

生活習慣病の予防は健康を維持するためには大変重要である。今回、当院健診センターにおいて2014年と2018年の両年に受診した受検者を対象に肥満指数（BMI値）により分類を行い、2018年の血液検査データを基として比較を行ったので報告する。

方法

2014年・2018年両年に受診した5,690名（男性3,049、女性2,641）を対象とした。BMI値より、両年を各々A判定（BMI:18.4未満）、B判定（18.5-24.9）、C判定（25.0-29.9）、D判定（30以上）の各4グループに分類した。これをもとに、AA群（2014年A判定、2018年A判定）・AB・AC・AD・BA・BB・BC・BD・CA・CB・CC・CD・DA・DB・DC・DDの16群に分類した。

血液検査データで検討した項目は、血糖、グリコヘモグロビンA1c（A1c）、中性脂肪（TG）、総コレステロール（T-Cho）、HDLコレステロール（HDL-C）、LDLコレステロール（LDL-C）、尿酸について男女別にて群間比較を行った。群間における有意差検定は2018年にて行い、群内で2014年と2018年の比較も行った。検定はt検定を行い、有意水準5%以下を有意差有りとした。

結果

各性別での分布割合は、男性AA群2.6%、BB群60.0%、CC群19.4%、DD群3.9%であり、女性7.1%、65.0%、10.5%、2.4%であった。また、2014年C判定から2018年B判定で改善があったCB群が男性4.3%、女性2.7%であった。悪化したBC群は男性5.5%、女性4.1%となった。

経年で変化の無かった群では、血液検査で

TG・LDL-Cが、男女ともAA<BB<CC<DDで、HDL-CがAA>BB>CC>DDとなり、T-Choは群間差が見られなかった。血糖・A1cは男女ともAA<BB<CC<DDとなった。A1cに関しては男女ともほとんどの群において2014年と比べ2018年の方が0.2%程度高い結果となり、有意差があった。

経年で変化のあった群について、CB群において2014年から2018年にかけてTGが低下、HDL-C値は上昇が見られ有意な差を認めた。BC群においては、逆の結果となった。また、LDL-Cに関しては、CB群は有意差があり、BC群の差は無かった。

尿酸については、どの群においても経年による変化はみられなかったが、群間比較においては、男女ともAA<BB<CC<DDの結果となった。

まとめ

4年経過後で男女とも改善した群より悪化した群が多くなった。CC群においては比率で男性が女性の倍近くあり、男性の肥満傾向がうかがえる。A1cに関してはBMI増加と共に数値は増加しているが、2014年から2018年での変化において、ほとんどの群においての数値の増加が見られた。

臨床検査技術科 生体検査 内線 6315